

研究基盤の共創を目指した UTA の有機的調整 ～鳥取キャンパスにおけるコアファシリティ運営実践～

○松浦 祥悟

鳥取大学 技術部

1.はじめに

研究設備・機器の共用化は、限られたリソースの有効活用のみならず、研究成果を生み出すために不可欠な基盤として位置づけられている。先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）などの事業によって全国的にも整備が進んでおり、今後も先端研究基盤刷新事業(EPOCH) 事業などにより強力に推進されるものと期待されている。こうした中、研究基盤の効果的な運営にはハード・ソフト（DX 等）の整備はもちろんのこと、「チーム共用」を支える人材の役割が極めて重要となる。

本発表では、研究基盤運営において部局・分野間の連携を推進する UTA (University Technology Administrator) としてハブ機能を発揮した実践例を報告して情報共有するとともに、今後の研究基盤運営の形を議論したい。

2.多層的な組織間連携を支える UTA の有機的調整

2-1. 学内組織間における連携と「チーム共用」の強化

鳥取大学のコアファシリティ運営には、共用機器の所有・管理を行う研究基盤戦略センターを擁する「研究推進機構」、機器の維持管理や技術支援の依頼を受けて実施する「技術部」、事務を担う「研究推進部」などの異なる部署が関与している。発表者は技術部に所属し現場の状況を把握しつつ、組織の階層や枠組みを越えてディスカッションの場へ主体的に参画した。そして、双方に対してマクロ・ミクロ両面の情報を翻訳・提供する調整役を担った(図1)。この上下・組織間を有機的に結ぶハブ機能により、迅速な意思決定と信頼に基づくチーム共用の実効性を高めることができている。

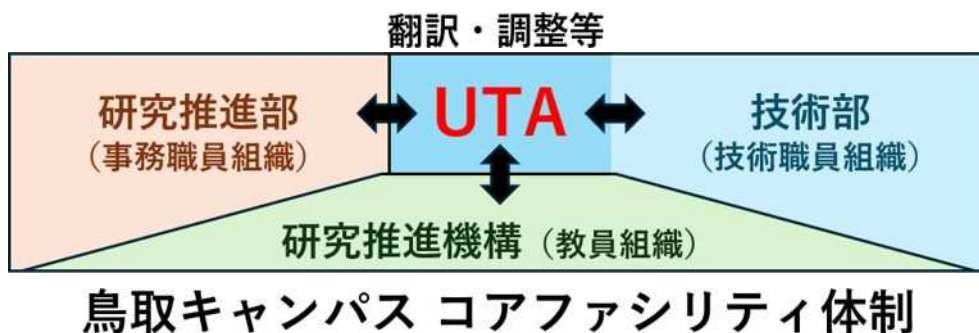


図1. 学内組織連携のコンセプト図（UTAのハブ機能）

2-2. 地域をはじめとした学外ネットワークへの展開と組織間連携の円滑化

UTA が果たす連携強化機能は、学内組織の緊密な連携に留まらず、学外の地域コミュニティや全国規模のネットワークに対しても拡張されている。本発表では、以下の3つの複層的なネットワークにおける事例を紹介する。

1) 地域・全国におけるファシリティネットワークの円滑化

鳥取県内の公設試験研究機関等とのネットワーク「TIFNet（鳥取県ファシリティネットワーク）」や「中国地方ファシリティネットワーク（広島大学主催）」などの地域ネットワーク、「研究基盤協議会」や「機器・分析センター協議会」などの全国ネットワークにおいて、研究推進機構とともに学内外との連携を進めている。

2) 名古屋工業大学技術部との技術組織連携の深化

名古屋工業大学技術部とは2011年（当時：旧鳥取大学工学部技術部）に「技術交流協定」を締結し、15年あまり技術発表会等を通じた交流を継続してきた。機器分析の枠を超えた組織運営ノウハウの共有や人的交流を展開することで、時代に即したアップデートを目指している。

3) 技術者コミュニティへの参画と組織的な人材育成の推進

研究基盤運営には現場を支える技術職員の技術力向上が不可欠である。これまで、TCカレッジ（高度技術人材育成プログラム）への参画をはじめ、様々なネットワークを活用することで技術力向上を図ってきた。本発表ではこれらの取り組みを継続・発展させるための財源確保の実践事例も併せて紹介する。

3.戦略的設備導入への最上流からの参画

従来、大型研究設備の導入プロセスでは、採択後に現場へ情報共有されていたため、運用実態とのミスマッチが生じるリスクがあった。UTAが技術職員の視点を持って戦略策定や予算申請の初期段階から参画し、該当分野の技術職員と連携したことで、現場の具体的な事情や課題を申請内容へダイレクトに反映可能となった。これにより、実効性の高い方針策定が実現しただけでなく、全学の共用化方針を現場へ迅速に浸透させる「双方向のコミュニケーションパス」が確立され、組織が一体となった機器運用体制の構築に大きく寄与している。

4.総括

鳥取キャンパスにおける一連の実践は、研究設備の共用化に携わる技術職員の役割を単なる「機器のオペレーター」から、大学の研究戦略を具現化する「戦略的パートナー」へと拡張させる試みである。経営・事務・現場を繋ぐ「UTAとしてのハブ機能」、現場の知見を最上流の申請に活かす「双方向性」、そして運営収益を現場の技術力へ還元する「再投資サイクル」の融合は、文部科学省の「技術職員の人事制度等に関するガイドライン」が目指す方向性とも合致している。本発表を通じて、課題や問題点も共有するとともに、今後の研究基盤運営における技術職員の活躍のあり方について、有意義な議論を展開したい。

謝辞

コアファシリティを支える関係者全ての皆様のご協力に感謝いたします。